



# 原点 に立って、 未来 へステップ

2015-2016 年度  
東日本区理事通信  
第 1 号  
2015年7月1日発行

## ■今月の強調目標

キックオフ・YMCA サービス  
ASF・RBM

### 理事メッセージ 東日本区理事 渡辺 隆

ワ イズの信条に「青少年の為にYMCAにつくそう」とあります。東日本区定款には、ワイズメンズクラブの目的の第一は「奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援すること」とあります。現在のワイズとYMCAについての関係は、

- A.協力的パートナーとして、共に支えつつ発展している。
  - B.YMCAに支えられ、ワイズが展開されている。
  - C.ワイズの支えによって、YMCAの活動が維持されている。
  - D.ワイズ活動が盛んで、独自にYMCAを立ち上げている。
- などが挙げられます。

「YMCAブランド」を共有・活用し、ワイズ・YMCA活動を拡大し、ワイズそしてYMCA共に認知度を高め、定款にあります通り「クラブの会員はYMCAの会員になるものとする」ことを実践いたしましょう。

東日本区発足時の会員数1,246人を目指しましょう。過去の決算を見ましても、1,000名を切った会員数では東日本区の健全な運営は難しいと言われています。会員拡大目標は各クラブ純増1名を確保していただく事

をお願いします。

東日本区設立時の基本方針は、

- 1) 部を強化し、事業推進の主体をクラブ・部とする。
- 2) 部に権限を委譲して、経費節減の為、区は「小さなキャビネット」とする、とあります。

事業推進主体をクラブ・部とすることで、組織の活性化を図っていただき、クラブと部の関係を強固にしましょう。クラブ会長のリーダーシップのもと、会員一人一人の顔が見える個性あるクラブが必要と思います。

東日本区の現状を正しく分析し、次世代、次次世代の若者といかに考えを共有するか、待っているのではなく、若者の中に飛び込み、心を通わせ、若者にも分かり易いワイズメンを目指し、すべての会員がリーダーとして、「未来へステップ」を明日からではなく、今から実践していきましょう。

アジア地域会長のエドワード・オンさんから組織が成長するためのパラダイムシフトについて、メッセージを頂きました。我々すべてのワイズメンは地域社会におけるリーダーです。ワイズの仲間から学び、社会に生かし、「世の為、人の為」に地域貢献いたしましょう。

### アジア地域会長メッセージ

Edward K.W. Ong (シンガポール)

組 織が成長するために、活性化され、再編成され、再生するには、変化の過程を経ることが重要な一歩である。しかしこの変化にはパラダイムシフトが必要である。どのようにパラダイムシフトを通ればよいか。

人は古いものから新しいものにそう簡単に変化はしない。人は、古い方法が最早有効ではないと認めたときに、初めて新しい方法を検討する。古いものから新しいものに変化する過程をパラダイムシフトと呼ぶ。それは単なる容易な変化ではない。個人的に私はその変化が3段階で起こるのを経験している。

まず最初にだれかがあることについて考える方法を変える。しかしそれはまだパラダイムシフトではない。

次にその人がその新しいことについて語る方法を変える。しかしこれもまだパラダイムシフトではない。

最後に彼らが新しい方法で行動し始める。この時こそパラダイムシフトが起こった時である。多くの人がこの変化の旅を始めるが、終わりに行き着かない。その理由は、忠実性の問題だからである。小さくて意味の無いように見えることでも、正しいことをただ考えたり、話したりしているだけではなく、実際に行くこと、このような小さな始まりが大きなことへつながる。

An important step for an organisation to be revitalised, reorganised, reborn to grow is go through a process of change. But this change requires a Paradigm Shift.

#### HOW WE GO THROUGH A PARADIGM SHIFT

People don't switch from something old to something new quickly. It is only after acknowledging that the old way is no longer effective that they even consider a new way. And the process of moving from the old to the new we call Paradgm Shift. But it doesn't happen in one easy move.

I personally see it happening in three stages.

First, someone changes the way they think about something. But that's not yet a paradigm shift.

Second, that person changes the way of talking about that new thing. But still that is not yet a paradigm shift.

Finally, they start behaving in a new way. That is when paradigm shift has happened. Many people start on this journey but never reach the end.

That's because it's an issue of FAITHFULNESS.

Not just thinking or talking about it, but actually doing the right stuff - even when it is small and seemingly insignificant. And from those small beginnings, big things happen.

新年度のスタートにあたり、4事業主任からのメッセージです。

## 地域奉仕

地域奉仕事業主任  
事業通信 相川 達男（東京江東）

今年度の地域奉仕事業のテーマは「出来ることをコツコツと」とさせていただきます。各クラブではメンバーの高齢化、実労人員の減少などの問題を抱える中、無理をせず現存の力で、出来ることを推進していただきたいと思います。勿論、大きな活動にチャレンジしていただくことも大変重要なことです。いくつかのクラブが協働して頂くことも素敵なことだと思います。高齢化や少人数化の傾向にあったとしても、活動内容を工夫されたり、小さな事をコツコツと積み重ねることによって、大きな成果を生み出すことができると思いますので今一度、各クラブの地域奉仕事業の見直しをお願いいたします。

さて、年度初めの7月は「YMCAサービス」「ASF」の強調月間となっています。各部、各クラブとも重点事項として取り組みをお願いしたいと思います。

「YMCAサービス」とは「YMCAに対する奉仕を立案、実行するワイズメンズ活動」とロースターに記されていますが、ワイズメンズクラブはYMCAの活動を支援し、YMCAを通して地域社会に奉仕、貢献するサービスクラブであるため、ワイズメンズクラブの活動

の根幹となる最も重要な事項になります。具体的な動きとしては以下の項目が有ります。

- ①ワイズメンズクラブの会員はYMCAの会員になる。
- ②YMCAとワイズメンズクラブの相互理解を深め、情報を共有する。
- ③YMCA主催のプログラムに積極的に参加、又はサポートする。

特に①の「ワイズメンズクラブの会員はYMCAの会員になる。」に関しては、渡辺理事の理事方針の中でも第1番の方針としてあげられている重要な項目ですので、この強調月間を機に、YMCA会員に未登録の方へお声がけをいただきますようお願いいたします。

「ASF」に関しましては、ご承知のようにアレキサンダー奨学基金の略称で、主にYMCAで働くことを希望する学生、YMCA在職者でより高いスキルを得るための訓練を希望する若手主事などの育成を財的援助することを目的として設立されたものです。具体的な動きとしては皆様からの自由献金としてお預かりしたもの（目標500円/1人）を活用させていただくこととなります。ご協力よろしくをお願いいたします。

なお、地域奉仕事業の献金(CS・ASF・FF)の送金先が、部を経由する方式に変更になりましたので、くれぐれもお間違いのないようお願い致します。

## 会員増強

会員増強事業主任  
事業通信 池田 直文（熱海）

今年度、会員増強事業主任を仰せつかまされた、熱海クラブの池田直文です。若輩者ですが一生懸命頑張りますので宜しくお願い致します。

私は今年度、『未来のために』をスローガンとしました。若い人を、色々な職業の人を、新しいクラブを、等々、全て『未来のために』です。より多くの仲間が出来ることは、我々皆の願いだと思っております。全メンバー一丸となって会員増強に努めましょう。

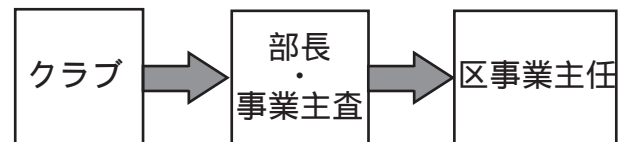
### 〈想定クラブ〉

さて、例年と大きく違うのは、各部で新クラブ設立を想定して、エクステンションを考えていこうというものです。ゲーム感覚でも結構です。とにかく行動に移してみましょ!

昨年、東京ベイサイドクラブが設立されました。久々の新クラブです。エクステンションが身近に感じられるように皆で考えていきましょう。そして、会員数を1,000名の大台に乗せ、青少年のためYMCAに対しても大きな奉仕が出来るようにしましょう。

〈インビテーションキャンペーン〉につきましては、12月までを表彰対象期間としまして、招待者が如何に入会に結び付いているか検証したいと思います。もちろん招待することはワイズのPRにもなることですので、対象期間以外でも推進していただければと思います。

そして、今年度一番変わることは、会員異動報告の方法がクラブから部長・会員増強事業主査を経由して区へ、というものです(下図参照)。半年報はこれまでも部を経由していますので、異動報告もそれに倣ったものです。



部長、部事業主査の皆様におかれましては、仕事が増えてしまいますが、宜しくお願い致します。

### 〈半年報について〉

クラブから部長への前期半年報の提出は、7月10日までに、部長は、7月15日までに当職までお願いします。皆様、一年間宜しくお願い申し上げます。

**国際  
交流**

国際・交流事業主任  
柳澤 岳（松本）  
事業通信

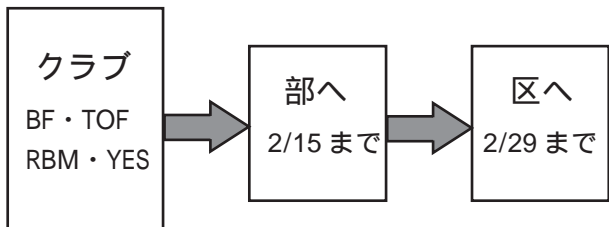
事業方針「地域と共にクラブと部が主体になり国際社会に貢献する」

国際・交流事業主任を務めさせていただきます、松本クラブの柳澤でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

〈献金目標〉

今期の目標は下表の通りです。また、私が掲げさせて頂きました活動方針にありますように、例年ご協力いただいている各種献金の納付方法が、下図のように変更となっております。

B F	2,000円以上/人	TOF	1,300円以上/人
RBM	800円以上/人	YES	500円以上/人



〈ロールバック・マリア(RBM)〉

7月はRBMの強調月間でもあります。

800円で蚊帳ひと張りになります。ご協力宜しくお願いいたします。

〈IBC/DBC〉

新年度、早速ビッグイベントがございます。「7月31日～8月2日 京都アジア地域大会」です。IBC/DBCの絶好の交流場となります。そこでIBC/DBCを熱望するクラブが、「自クラブPR」「希望するクラブ像」「連絡先」等を記入したカードを掲示して、マッチングを探れるブースを特設したいと考えております。すでに、札幌クラブと京都パレスクラブがDBC締結の予定です。近日中に、アンケートのご案内を致したいと思っておりますので、IBC/DBCの相手先を探しておられるクラブは、大会参加の可否にかかわらず是非ご活用ください。

〈使用済み切手〉

前年度末に、切手収集業者から、これまでのクラブから直接受け取る方法を取りやめるという申し出がありました。国際・交流事業委員会で検討した結果、部で対応することになりました。詳細は近日中にお知らせ致します。

**ユース**

ユース事業主任  
浅羽俊一郎（東京山手）  
事業通信

6月の厚木の区大会、お疲れさまでした。ユース事業分科会には24名が参加。篠田秀樹メン（東京江東）と大久保知宏メン（宇都宮）をパネリストに迎え、リーダーたちが卒業とともにYMCAと縁が無くなる現状について議論しました。リーダーたちの関心・目的とYMCA・ワイズがユースに抱く期待に隔たりがあるように思いました。

さて、ユース事業は既にプログラムが3つ準備が進められています。

一つは京都で開催のアジア地域ユース・コンボ

ケーション(AYC、7月29日-8月2日)。アジアの若者が文化交流と議論に明け暮れます。東日本区からは6人参加予定。お名前と推薦クラブは、

1. 金子彩奈氏(埼玉)
2. 渡嘉敷太海氏(東京たんぽぽ)
3. 釜坂聖氏(東京山手)
4. 永坂仁氏(宇都宮)
5. ムングバット氏(モンゴル出身、東京武蔵野多摩)
6. 船越谷充昭氏(札幌)

今期アジア地域ユース代表は広島YMCA福山ブランチ所属の沖麻実氏です。

もう一つ、STEP(ワイズ・YMCA関係の15才以上の若者のための短期留学・異文化理解受入れ活動)。ロシアからMatvei君(15才)を、8月に西日本区・東日本区で受け入れる方向で準備しています。

三つ目、経験の浅いリーダーを対象とするユースボランティア・リーダーズフォーラム(YVLF)が9月11日-13日の日程で東京Y山中湖センターで開催されます。メンバー・リーダー・保護者としての経験を持つ篠田秀樹氏が基調講演してくれます。

今後理事通信、事業主任通信等を通じて皆様にユース委員会の取組みについて紹介していきます。よろしく宜しくお願いいたします。



左から金子、渡嘉敷、岡野直前アジア会長、永坂、釜坂、衣笠直前ユース主任の各氏(6月7日、区大会にて)



### そうだ 京都アジア大会へ行こう!

◇登録締切が延長されました。

アジア地域大会の登録締切を7月20日まで延長されました。日本では16年ぶりの大会です。皆で京都へ行きましょう。

(大会は7月31日から8月2日まで)

#### ◇エクスカーションでの服装

大会2日目のエクスカーションは、観光に加え体験型のプログラムが楽しめます。

屋外でのコースは、動きやすい軽装でスニーカー履きをお勧めいたします。また、縁日コースを申し込まれた方は、できるだけ浴衣を持参いただき、日本の夏祭りの雰囲気作りにご協力ください。更衣室も用意しております。

#### ◇WEB協賛への引き続きのお願い

ユースコンボケーションに多くの若者が参加いただけるように登録費を抑えています。WEBバナー協賛でご支援をお願いします。個人5,000円 団体・法人10,000円、申込書は、ホームページからダウンロードできます。  
<http://ic2010yokohama.web.fc2.com/kyousankoukoku.htm>  
お問い合わせ先:京都センチュリークラブ 片山吉章さん



### YMCA たより

日本YMCA同盟は、6月20日～21日に東山荘でYMCA同盟協議会を開催しました。この協議会は、前年度の事業を振り返り、あらたな年度の事業方針計画や予算について全国の加盟YMCAからの承認を得ることが目的ですが、1年に一度、各加盟Yのトップリーダーやユースの代表が集い、親交を深め、これからの1年を同じ目標に向かって共に歩むことを決意する機会でもあります。

今年は特に同盟中期3カ年計画の2年目にあたり、国際的な青少年団体としてのブランドを強化し、そのためにキリスト教的基盤や各組織のガバナンスをしっかりと整えることにも意識を注ぐことが確認されました。

東日本区からも田中博之理事、渡辺隆次期理事(当時の役職)にもご出席いただき、YMCA運動を共に担い、支援や協働を更に推進していくことを全国からの参加者に対してもお伝えいただきました。東山荘100年募金へ1,000万円という大きな貢献を頂くことと合わせ、YMCAとしてもワイズメンズクラブの価値をあらためて認識することができました。(連絡主事:田尻忠邦)



### ★ 絵本発送

メネットの国内プロジェクト「絵本を贈る運動」の発送作業が、6月20日(土)、仙台3クラブ(仙台・仙台青葉城・仙台広瀬川)のメネットたちの手で仙台YMCAにて行われました。今回は、40ヶ所からの嬉しいリクエストがあり、200冊の本を仕分けし、各YMCA(仙台、とちぎ、埼玉、東京、横浜)へそれぞれまとめて送らせていただきました。子供たちの健やかな成長の一助になりますようお願いしております。

(加藤真子:直前メネット委員長)

### ★ モンゴル・ウランバートルクラブ応援ツアー

昨年、モンゴル初のクラブ設立に関わった東京武蔵野多摩クラブ主催の応援訪問ツアーが、6月24日から28日の行程で実施され、7クラブ13人のメン・メネット・コメットが参加しました。ウランバートルから車で約1時間のアルグンテ区にあるモンゴルYMCAゲルキャンプの開所式に参加し、その後クラブメンバーと満天の星空の下で食事をしながら歓談。東京武蔵野多摩クラブおよび参加者一同より支援金及びお祝い金を贈呈、当日はファーストゲストとしてゲルに宿泊しました。



### ★ 車椅子贈呈

ユース事業のひとつ、プルリング収集による車椅子の贈呈式が、6月25日(木)、東京・国立市にある「東京都多摩障害者スポーツセンター」において行われました。



前年度の東日本区大会で、「プルリング収集最優秀賞」を受賞した東京グリーンクラブの推薦によるもので、贈呈式には衣笠輝夫ユース事業主任(当時)、東京グリーンクラブの青木方枝会長、浅見クミ子、佐野守、布上征一郎の各メンが出席しました。



〈クールビズで〉暑い夏の例会は、上着・ネクタイを外して、ワイズ活動に励みましょう。クーラーの温度設定も少し高めにし、温暖化防止に協力しましょう。

〈東日本区事務所より〉今年度は、東日本区事務所長を理事が兼務し、事務職員の小山憲彦さん(東京サンライズ)が週3日の勤務態勢をとります。業務は月・水・金曜日の13時から18時です。留守電の時は、お名前・電話番号のメッセージを残すようお願いいたします。